

目次	
1. 会長就任のご挨拶 ……………美添泰人… 1	6.2 ガンマ乱数生成のアルゴリズムについて ……………谷崎久志…12
2. 会長退任のご挨拶 ……………北川源四郎… 3	7. 修士論文・博士論文の紹介 ……………14
3. 2009年度統計関連学会連合大会について(第二報) ……………村上征勝, 水田正弘, 橋本紀子… 4	8. 評議員会議事録 ……………19
4. 日本統計学会春季大会2009の報告 ……………岩崎 学… 8	9. 理事会議事録 ……………20
5. 「第14回日本統計学会賞」, 「第5回統計活動賞」, 「第5回統計教育賞」受賞候補者の推薦募集 ……………岩崎 学… 9	10. 来日統計学者の紹介 ……………22
6. シリーズ: 統計学の現状と今後	11. 新刊紹介 ……………23
6.1 公的統計の調査票情報の提供と利用 ……………佐藤朋彦…11	12. 学会事務局から ……………23
	13. 投稿のお願い ……………24

1. 会長就任のご挨拶

美添 泰人 (青山学院大学)

この1月より日本統計学会の会長として学会運営のお手伝いをさせていただくことになりました。岩崎理事長および理事の皆様との協力の下、評議員の皆様のご助力も賜りつつ、微力ではありますが統計学の発展のために努める所存です。

現在、大量の情報を分析する手法としての統計的技術に対しては需要が急速に増大している一方、統計学の相対的な地位がなかなか向上しないというもどかしさを感じている会員も多いのではないのでしょうか。北川前会長は明確な問題意識をもって、特に日本における統計学を発展させようと努められましたし、岩崎理事長もその方向を継承されています。私も、その目的意識を共有しつつ、統計学の発展と地位向上のため、任期中に何らかの進展を図りたいと考えています。以下、日



本統計学会が直面している課題のいくつかを記してみます。

(1) 日本の統計学の発展

日本の統計学全体の発展のためには、統計関連学会連合など、統計関係者のより緊密な連携・協力が不可欠です。過去数年間にわたって、統計学

関連学会の協調の機会は次第に増加してきましたが、今後もそれぞれの学会の主体性を保ちながら、相互の利益になるような活動を拡大・推進する必要がありますでしょう。

現在のような連合大会の運営を可能とした要因の一つに、各学会の名簿を共通して管理する仕組みがあります。私が日本統計学会の理事長に就任した1994年の時点では、各学会の名簿は別個に管理されていたため、相互に情報を提供することは困難でした。統計情報研究開発センター（シンフォニカ）に日本統計学会の事務を委託する際、名簿管理をデータベース化した意図は、名簿管理の共通化を通じて関連学会相互の交流を円滑にすることにありました。その後、関連学会もシンフォニカに事務を委託することになり、連合大会などの機会に、相互に情報を提供できる体制が整備されつつあることも統計学界の発展に寄与する重要な前提です。

日本統計学会独自の活動として、学会誌の充実や春季集会など、いずれも重要ですが、今後も、統計学関連学会と相互の情報交換や共同企画などを通じて協力関係を構築していくことが、日本の統計学界を活性化する上で有効と考えます。多角的な視点の研究者が協力できる環境が整備され、さまざまな分野で統計的手法がより適切に応用されるならば、究極的には社会に大きく貢献できることとなります。

(2) 統計教育と若手研究者支援

日本統計学会の会員数は1,400人程度で推移しています。アメリカ統計学会の18,000人という会員数と比較するまでもなく、さまざまな形で統計活動に従事する人を考えれば、会員数が多いとは言えません。一つの方策として、関連分野の研究者だけでなく、教育関係者に対しても学会への参加をうながすことが考えられます。特に、このたびのカリキュラム改訂の結果、中学校・高等学校での統計学の適切な教材を求める教員も相当な数になると予想されます。このような人々への統計教育の面での協力と、学会と連携した支援制度

の構築が求められるでしょう。

一方で、若手研究者を中心として会員を増やすためには、統計学会の価値を高めるような工夫も続けなければなりません。科学研究費の取得に対する支援および積極的な活用の推進、いくつかの賞の授与を通じた研究・教育活動の支援、統計的技術を求める企業や政府機関に対する組織的な協力体制への若手の積極的な登用など、これまでの取り組みを含めて更なる検討と実行が急務です。これからの学会の維持と発展のためにも、統計教育に対する取り組みは、今後、さらにその重視性を増していくことでしょう。

(3) 公的統計の利用拡大

統計学の応用分野の中で、日本では政府の作成する公的統計に関する研究事例が少ないことが従来より指摘されてきました。その原因のひとつは法制度にありましたが、2007年5月に統計法が全面的に改正され、研究を目的とした公的統計の利用が容易になりました。

これを反映して、公的統計による研究成果は質量ともに飛躍的に増大することが期待されています。ただし、そのためには、個別情報の秘匿と分析の有効性のバランスを図らなければなりません。そのような判断のためには政府の統計作成機関だけでなく、学会からの技術的な協力が必要です。公的統計の利用にあたっては専門家集団としての規律も大切ですが、公的統計の適切な利用を推進するために日本統計学会が果たすべき役割は大きなものがあります。

(4) 統計に関する広報活動

統計学に対する社会の認知度を高める工夫も必要です。たとえば、日本学術会議では「統計学」という固有の分野は消えて、現在、連携会員として選出されている統計関係者はさまざまな分野に分散させられています。この点は、統計関係者の尽力によって若干の改善が図られているものの、統計学界として情報を発信するためには、いまだに多くの課題が残されています。日本学術会議に

数理統計学分会の設置を求める文書では「統計学は諸学にまたがる広い学問領域でありその社会的影響も大きい」と説明されています。この視点から、広報活動の重要性を十分に認識し、行動していく必要があります。

他にもさまざまな課題がありますが、それらを解決して学会を発展させるには、会員の皆様のご支援とご協力が不可欠です。積極的にご意見やご要望をお寄せいただければ幸いです。

略 歴：

美添泰人（よしぞえやすと）1946年生，統計学

Ph.D.

1969年 東京大学経済学部卒業

1975年 東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得

1978年 ハーバード大学大学院修了（統計学専攻）

1979年 立正大学経済学部助教授，教授，シンガポール国立大学上級講師などを経て

1992年 青山学院大学経済学部教授，学部長（2001－2002年）

研究分野：ベイズ統計，経済統計

2. 会長退任のご挨拶

北川 源四郎（統計数理研究所）

平成19年1月から2年間にわたり日本統計学会会長を勤めさせていただき、先日無事退任することができました。これもひとえに田中勝人前理事長、岩崎学理事長および理事、評議員、会員の皆様のご活躍・ご支援のおかげと感謝いたしております。

2年前、会長就任にあたって、（1）若手が参入する組織へ（2）連携の強化（3）広報活動の強化と外部への働きかけの3つを目標に掲げました。残念ながら、会長としてこれらの目標の実現に直接貢献できたことは殆どありませんでしたが、幸いにも多くの会員の方々が、様々な活動を活発に展開され学会の活性化と統計学の社会的認知に向けて大きな貢献をされました。感謝の意をこめて、それらの一部をご報告申し上げます。

まず、75周年関連事業（杉山高一委員長）の一部が前期に引き続き実施されました。2007年の連合大会開催時には75周年記念出版賞が優れた出版活動に対して授与され、現在の出版賞につながりました。和文誌においては大森裕浩編集委員長のもとで2007年から2008年にかけて75周年記念特集が3号にわたって刊行され、和文誌の著しい充実が実現しました。2008年には英文誌では谷口正信

編集委員長のもとで赤池記念特集号が刊行されました。海外からも多くの著名人の投稿があり、今後の国際化や国際的知名度の向上に繋がるものと期待されます。また国友直人氏、山本拓氏の監修により「21世紀の統計科学」3部作（社会・経済の統計科学、自然・生物・健康の統計科学、数理・計算の統計科学）が東大出版会から刊行され、統計学の発展の方向を明らかにすることができました。

2002年から開始された統計関連学会連合大会は、他の統計関連学会との連携・協力によって順調に発展し、参加者は800名を越えるようになるとともに、今年度の連合大会では初めて6学会の共催が実現できることになりました。この一方で、統計学会の独自性を発揮するために2007年から試行してきた春季集會も本年3回目を迎え、ようやく定着した感があります。近年、学会会場や懇親会でも多数の若手が見られるようになり、目標とした若手の参入についてはある程度、実を結びつつあるように思えます。また、統計学会では国際交流活動の一環として学会開催時に韓国の統計学会との相互交流を進めてきましたが、今後は台湾を加え三カ国において順次国際セッションを開催

することになり、2008年には台湾で実施されました。

大学等における分野間の競争が激しくなる中で、学会による顕彰には大きな意義があります。統計学会では2007年に研究業績賞を設け優れた研究業績を挙げた個人の顕彰を始めましたが、2008年には新たに出版賞を設けるとともに、連合大会の企画セッションとして日本統計学会各賞受賞者講演を実施いたしました。今後は統計学会賞等の既存の賞も含めより一層学会の活性化に繋がるように、その推薦方法などについて、新執行部のもとの改善を期待したいと思います。

統計教育に関しては統計教育委員会（村上征勝前委員長、渡辺美智子委員長）を中心に、文科省への要望書提出、シンポジウム・市民講演会の開催など極めて活発な活動を展開していただき、新指導要領における統計活用能力の重視と必修化の実現など大きな成果をあげました。

この他、統計学会の活動報告からは多少外れますが、2007年度には数理科学研究によるブレークスルーの探索がまた2008年度には多様で大規模データの利活用が文科省の戦略目標として指定され

JSTのさきがけおよびCRESTの募集が行われています。また、第4期科学技術基本計画にはサービス科学が取り入れられるといわれています。さらに22期の日本学術会議情報学委員会においては大規模実データ利活用基盤分科会が発足し、統計科学と情報学の接点分野に関する検討が始まっています。情報通信技術の急速な発展にともなって、様々な学術研究分野や社会において、大規模データの活用するための方法の学としての統計科学の重要性が再認識されつつあります。この分野における学会員諸兄のより一層の活躍を期待します。

このように現在、学術研究の分野でも、また教育においても、更には統計法の制定によってデータの体系的整備においても、統計に関連する新しい動きが形成されつつあります。統計学会にとっては大きな発展の好機でもあり、また重大な役割を付託されているともいえます。美添泰人会長、岩崎学理事長のもとで日本統計学会が今後益々発展することを期待し、また会員諸氏には新執行部にこれまでと変わらぬご支援・ご協力をお願いして私の退任のご挨拶とさせていただきます。

3. 2009年度統計関連学会連合大会について（第二報）

実行委員会委員長 村上征勝（同志社大学）
プログラム委員会委員長 水田正弘（北海道大学）
運営委員会委員長 橋本紀子（関西大学）

2009年度統計関連学会連合大会につきまして、進行状況と詳細をご報告いたします。第一報でもご紹介いたしましたとおり、今大会は、統計関連学会連合に所属する全ての学会の共催により開催することになりました。2009年3月9日に公示された高等学校の新学習指導要領によりますと、数学Ⅰに統計学の内容が明示的に示されており、全ての高校生が統計学の内容を学習することになるようです。また、数学以外の科目でも統計学の考え方が重視されているように思われます。このような時期に、統計関連の学

会の協力関係に基づく大会の開催は重要だと思われれます。

以下では、市民講演会、チュートリアルセッション、企画セッション、コンペセッションなどの概要などを紹介させていただきます。また、各種申込に関しては、以下の日程を予定しております。

講演申込

5月11日(月) 9:00～6月2日(火) 17:00

原稿提出

6月15日(月) 9:00～7月6日(月) 17:00

事前参加申込

7月16日(木) 9:00～8月20日(木) 17:00

これらも含めまして、項目ごとにご紹介させていただきます。

今後、連合大会のWebページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/>に関連情報や詳細情報が随時掲載されます。

3.1 大会の場所と日程

開催日程：2009年9月6日(日)～9日(水)までの4日間(9月6日は、チュートリアルセッションと市民講演会のみ)

開催場所：

9月6日(日) 同志社大学今出川キャンパス

http://www.doshisha.ac.jp/access/ima_access.html

9月7日(月)～9日(水) 同志社大学京田辺キャンパス

http://www.doshisha.ac.jp/access/tanabe_access.html

共催：応用統計学会，日本計算機統計学会，日本計量生物学会，日本行動計量学会，日本統計学会，日本分類学会

なお、懇親会を2009年9月8日(火)19:00～(予定)に、京都東山の八坂の塔のそばにあるThe Garden Oriental Kyotoにて予定しております。今回の会場は竹内栖風の私邸「東山艸堂」だったところで、近くには高台寺、八坂神社、清水寺などがあり、懇親会後の散策にはもってこいのところです。京都の夏の夜をお楽しみいただければと思います。同会場で、懇親会直前に、コンペティション最優秀報告賞および優秀報告賞受賞者表彰式が行われる予定です。

3.2 講演の申込

講演は「一般講演」，「企画セッション講演」，「コンペティション講演」の3種類からなります。申込み方法は、すべての講演に共通の事項と講演ごとに異なる事項がありますので、ご注意ください。

各講演の詳細につきましては、連合大会のWebページを参照して下さい。

(i) すべての講演に共通する事項

講演をご希望の方は、上記Webページからお申込み下さい。その他の申込み方法はありません。申込み期間は2009年5月11日(月)9:00から6月2日(火)17:00までです。Webページ上で、「一般講演」，「企画セッション講演」，「コンペティション講演」のいずれかを選択して下さい。「企画セッション講演」はオーガナイザー、それ以外は講演者が申込んでください。

(ii) 「一般講演」に関わる事項

通常の講演は「一般講演」として講演者がお申込み下さい。Webページ上の講演申込み手順にしたがって申込みをして下さい。プログラム編成の際の参考にしますので、最大3個までのキーワードを、重要視する順に選択願います。また、講演者(連名講演者を含む)のうち、少なくとも1名は共催6学会のいずれかの会員であることが要件です。

(iii) 「企画セッション講演」に関わる事項

オーガナイザーによる一括申込みとします。

(iv) 「コンペティション講演」に関わる事項

「コンペティション講演」に関わる事項はつぎの通りです。コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画で、今回で7回目を迎えます。参加資格は2009年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者です。所属(大学院生、教員、社会人)は問いません。連名講演の場合は、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。なお、研究報告の申込み時点で、コンペティション対象者は、共催6学会のいずれかの会員でなければなりません(ただし、申込みと同時に入会手続きをする方も含みます)。前回(慶応大学大会)と同様に事前審査は行わず、申込んだ有資格者全員がコンペティションに参加して頂けます。審査は、当日の口頭発表に対しての数名の審査員と参加者の一般審査との総合評価で行う予定です。詳細は連合大会のWebページに掲載される「コンペティション講演のご案内」をご

覧下さい。

3.3 講演報告集用原稿の提出

講演報告集を大会当日に配付いたします。また、Webでも公開いたします（CD-ROMは作成いたしません）。報告集用原稿はA4で1ページです。提出方法としましては、Webページから電子ファイル（PDF形式）を提出する方法を原則といたします。これが困難な場合に限り、紙原稿の郵送も受け付けます。いずれの方法でも、原稿提出期間は6月15日（月）9：00から7月6日（月）17：00まで（紙原稿の場合も必着）です。厳守をお願いします。なお、紙ベースでの原稿郵送先は〒060-0811 札幌市北区北11条西5丁目 北海道大学情報基盤センター（北館） 水田正弘 宛 です。

希望者は、報告集用原稿とは別に詳細論文（Webに掲載）をA4で最長10ページまで提出できます。論文はPDF形式（ファイルサイズは1MB以内）でメールによりプログラム委員会宛（taikai2009@jfssa.jp）にお送り下さい。

報告集用原稿および詳細論文の執筆要項につきましては連合大会Webページをご覧ください。「企画セッション講演」の報告集用原稿の提出はオーガナイザーが一括して行って下さい。したがって、企画セッション講演者の方はオーガナイザーによる原稿提出が締切りに間に合いますようにオーガナイザーに原稿をお送り下さい。よろしくお願い申し上げます。

【注意】報告集は、Webにて公開予定です。Webでの公開を希望しない場合には、報告集用原稿の提出時に、その旨をご指示ください。

3.4 企画セッションのご案内

現時点において、全部で15件の企画セッションが設けられています。テーマ（仮題）とオーガナイザー（敬称略）の氏名（所属）は以下の通りで

す。テーマのねらいや講演者・講演タイトル等につきましては連合大会のWebページをご覧ください。企画セッションの運営はオーガナイザーに一任していますので、企画セッションにおける講演者で質問等がおありの方は直接オーガナイザーにお問い合わせ下さい。なお、セッションの日程はプログラム作成時に決定いたします。

- ・ Non- and semi-parametric inference [Byeong U. Park (Seoul National University), Ming-Yen Cheng (University College London), 前園宜彦 (九州大学)]
- ・ Model selection [Byeong U. Park (Seoul National University), Ming-Yen Cheng (University College London), 前園宜彦 (九州大学)]
- ・ Machine learning [Byeong U. Park (Seoul National University), Ming-Yen Cheng (University College London), 前園宜彦 (九州大学)]
- ・ 感染症対策における計量生物学の貢献 [大森崇 (京都大学), 服部 聡 (久留米大学)]
- ・ Bayes統計モデルのための計算技法とその応用 [坂本 亘 (大阪大学), 桜井裕仁 (北海道大学)]
- ・ スポーツ統計科学の新たな挑戦 [酒折文武 (中央大学), 田村義保 (統計数理研究所)]
- ・ アジア地域における計算機統計学 [栗原考次 (岡山大学)]
- ・ 変わる初等中等教育における統計教育 [藤井良宜 (宮崎大学)]
- ・ 大学・大学院における統計教育 [宿久 洋 (同志社大学)]
- ・ 統計科学, バイオインフォマティクス, システム生物学の統融合的発展 [井元清哉 (東京大学), 樋口知之 (統計数理研究所)]
- ・ 心の中の統計原理 [足立浩平 (大阪大学)]
- ・ 匿名データ [安田 聖 (一橋大学)]
- ・ 応用統計学会学会賞受賞者講演 [永田 靖 (早稲田大学), 岸野洋久 (東京大学)]
- ・ 日本統計学会会長講演 (ならびに各賞授賞式) [岩崎 学 (成蹊大学)]

- ・日本計量生物学会奨励賞受賞者講演 [上坂浩之 (日本イーライリリー株式会社)]

3.5 チュートリアルセッションのご案内

チュートリアルセッションでは、2つのテーマを用意しました。2つの会場で並行して行いますので、テーマ1またはテーマ2のどちらかをお選びいただけます。

日 時：2009年9月6日(日) 13:00～15:45
(12:30より受付開始)

場 所：同志社大学今出川キャンパス

演題・講演者(敬称略)：

テーマ1：ノンパラメトリック回帰入門

竹澤邦夫(中央農業総合研究センター)

テーマ2：DSGEモデルとVARモデルの計量分析
—MCMCのマクロ金融政策への応用

渡部敏明(一橋大学), 藤原一平(日本銀行金融研究所)

なお、テーマ名や講演時間等について多少の変更があり得ますことをご了解下さい。

3.6 市民講演会のご案内

下記のテーマについて、講演会を予定しております。参加費は無料です。

日 時：2009年9月6日(日) 16:00～18:30

場 所：同志社大学今出川キャンパス

テーマ：学力調査と統計～全国学力・学習状況調査の現状と統計的側面からの検討

開催趣旨：

国際的な学力調査として、経済協力開発機構(OECD)の実施している学習達成度調査(PISA)や国際教育達成度評価学会(IEA)が実施している国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)の結果から、近年日本の子ども達の学力が低下しているのではないかとという問題が指摘されています。この流れを受けて、平成19年4月から文部科学省では、「全国学力・学習状況調査」を開始し、今年4月で3回目の実施を迎えました。この調査は小

学校6年生と中学校3年生の全員を対象とするもので「悉皆調査」と呼ばれます。当初から調査の設計や、得られたデータをどのように教育現場にフィードバックするか等、種々のフェーズに対して議論があり、現在でも多くの国民が関心を持っている調査でもあります。

今回の市民講演会では、この「全国学力・学習状況調査」について、統計的側面から検討を行ない、その役割や課題、利用方法について議論を深めてもらうことを目的に企画しました。この調査の設計から解析作業に至るまでの一連の調査活動について、最新の研究成果を識者や専門家に解り易く講演してもらいます。

講演者については確定し次第、Webページに公表します。多くの方のご参加をお待ちしております。

3.7 参加申込と大会参加費

当日受付の混雑を緩和するため、7月16日9:00から8月20日17:00までWebによる事前申込みを実施します。割引もございますので、ぜひご利用ください。

市民講演会は無料です。

なお、これまでの大会と同様、事前申込みのキャンセル・変更は認めません。大会に参加されなかった場合、報告集あるいは資料を送付いたします。

また本年は、大会初日(9月6日(日)、今出川キャンパス)は、チュートリアルセッションの受付のみを行い、大会参加、懇親会の受付は行いません。ご了解の程、よろしく願いいたします。

3.8 宿泊・アクセス案内

今大会では宿泊の紹介・斡旋はいたしません。大会Webページの宿泊・観光に情報を掲載していますのでそちらをご参照ください。大会会場(京田辺)近辺には宿泊施設がありません。京都、奈良、大阪のいずれからでもアクセス可能ですが、懇

大会参加費（報告集代を含む）	事前申込み	当日受付
会員（共催6学会の会員）	4,000円	6,000円
学生（会員・非会員を問わず）	1,500円	6,000円
学生以外の非会員	10,000円	12,000円
チュートリアルセッション 参加費（資料代を含む）	事前申込み	当日受付
会員（共催6学会の会員）	2,000円	3,000円
学生（会員・非会員を問わず）	1,000円	3,000円
学生以外の非会員	4,500円	6,000円
懇親会参加費	事前申込み	当日受付
一般（会員・非会員を問わず）	7,000円	8,000円
学生（会員・非会員を問わず）	3,000円	4,000円

親会は京都市内を予定しておりますのでご留意いただければと思います。なお、大会期間中の朝および夕刻に近鉄新田辺駅と同志社大学正門前の間で巡回バスを運行する予定です。近鉄を利用される方は巡回バスをご利用いただければと思います。JRをご利用の方は、JR京田辺駅（近鉄新田辺まで徒歩5分）から新田辺駅まで徒歩で移動していただき巡回バスを利用されるか、JR同志社前駅（正門まで徒歩10分）を利用していただければと思います。

3.9 保育室

会場内の一室を保育施設にいたします。運営は

専門の業者に委託いたします。多くの方のご利用を期待しています。利用規定や申込み方法などは後日大会Webページに掲載します。なお、本年度も保育室設置に際し、(財)日本統計協会による助成金を申請する予定です。

3.10 Webページおよび問い合わせ用メールアドレス

連合大会のWebページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/> に関連情報や詳細情報が随時掲載されます。メールによる問い合わせは、[taikai2009\(at mark\)jfssa.jp](mailto:taikai2009(at mark)jfssa.jp) 宛にお願いいたします。

4. 日本統計学会春季大会2009の報告

岩崎 学（日本統計学会理事長）

標記の集会在2009年3月6日（金）に統計数理研究所で開催され、関係者のご協力により無事終了することができました。今回の集会では「国際性」に力点を置き、3つのプレナリーセッション「統計教育の質保証と統計学会の役割」、「セミ・ノンパラメトリック法の最近の展開」、「ブートストラップ」を展開しました。集会の参加者数は125名を数え（2008年は82名）、集会後の懇親会に

も45名の方々が参加されました。各セッションをオーガナイズいただいた渡辺美智子（東洋大学）、西山慶彦（京都大学）、下平英寿（東京工業大学）の諸氏に感謝します。

「統計教育の質保証」のセッションでは、英国王立統計学会統計教育センターのNeville Davies所長をお招きし、英国での統計教育への取り組みをお話いただきました。続く3名の討論者による

それぞれの視点からの討論もあり、今後統計学会として取り組んでいかななくてはならない課題が浮き彫りにされました。「セミ・ノンパラメトリック法」のセッションは、専門家の間からも「難しすぎる」との声も出たほどで、各トピックスに関する最新の話題が提供され国際的にも高く評価され得る内容でした。「ブートストラップ」のセッションは、2009年がB. EfronのAnn. Statist.の1979年の論文から30周年に当たることから企画され、これまでの研究の流れから最近の話題に至るまでが分かりやすく提供されて、参加者からも好評を博しました。

昨年に引き続きポスターセッションも企画され、若手の統計家を中心に10件の発表がありました。ポスター発表者のショートトークの効果もあり、ポスター会場では来場者との熱心な議論および発表者同士の交流などが行なわれていました。今回は優秀な発表の表彰が企画され、林 邦好(北海道大学大学院情報科学研究科)、兵頭 昌

(東京理科大学大学院理学研究科)の2名の最優秀発表者が懇親会場にて美添会長より表彰されました。

今回参加人数が増えた要因の一つは、ポスター発表をはじめとする若手の参加者が多かった点です。ポスター会場が発表者同士の交流の場となった点は企画者の当初の期待を上回るものがありました。来年度以降もより多くの発表が集まるよう期待します。

春季集会翌日の3月7日(土)には同じ統計数理研究所で統計学会の統計教育委員会および統計教育分科会ならびに統計数理研究所の主催による第5回統計教育の方法論ワークショップが開催され、統計教育の観点からは2日間の集会ともなりました。

最後になりましたが、このような集会の場をご提供いただいた統計数理研究所に感謝申し上げますと共に、次回2010年の春季集会への会員の皆様のご参加をお待ちいたしています。

5. 「第14回日本統計学会賞」、「第5回統計活動賞」、「第5回統計教育賞」受賞候補者の推薦募集

岩崎 学(日本統計学会理事長)

「第14回日本統計学会賞」、「第5回日本統計学会統計活動賞」、「第5回日本統計学会統計教育賞」の受賞候補者の推薦を下記により募集いたします。各賞の推薦締め切りは2009年6月12日(金)です。推薦書の宛先は下記で、封筒に「～賞推薦書在中」と朱書きしてください。なお、推薦書は日本統計学会のホームページからダウンロードできます。

[宛先、照会先]

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
(財)統計情報研究開発センター内

日本統計学会事務局

TEL & FAX : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

[対象範囲]

各賞授賞の対象となる者は、その年齢、性別、国籍、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。なお、統計活動賞、統計教育賞については、個人のみならずグループや団体も授賞対象になる。

[推薦及び選考方法]

受賞候補者を推薦できる者は、日本統計学会の正会員および名誉会員に限る。推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。各賞授賞対象者の選考は、会員の推薦を受けてそれぞれの賞の選考委員会が実施する。

[発表]

各選考委員会は、その結果を評議員会および学会総会において報告し、大会期間中に授賞式を行なう。

なお、各賞の概要と規定を以下にご紹介します。
詳細は学会ホームページをご覧ください。

日本統計学会賞

[名称]

日本統計学会賞

[趣旨]

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

[対象範囲]

対象とする分野は次のとおりとし、全体として年間3名程度に授与する。

理論：統計学の理論の発展に多大の貢献のあった者

実証・応用・計算：この分野は以下のような内容を含む。

(1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。

(2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。

(3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。

(4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。

その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

[選考方法]

推薦者は所定の書式にしたがって、対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名。

・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。副賞は、原則として「統計学の学会活動60周年記念基金」の果実の範囲とする。

日本統計学会統計活動賞

[名称]

日本統計学会統計活動賞

[趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

[対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動である。

(1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等）。

(2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。

(3) 新たな研究領域・分野の開拓。

(4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

[選考方法]

授賞対象となる活動は、日本統計学会に設けた選考委員会が会員からの推薦を受けて選考する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

・日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名。

・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会統計教育賞

[名称]

日本統計学会統計教育賞

[趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とする。

- (1) 統計教育に関する著書、論文
- (2) 統計教育の実践
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、教材等の開発
- (4) 統計の普及、啓蒙

(5) その他統計教育の発展に寄与する活動

[選考方法]

授賞対象者は、日本統計学会に設けた選考委員会が会員からの推薦を受けて選考する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

6. シリーズ：統計学の現状と今後

6.1 公的統計の調査票情報の提供と利用

佐藤朋彦（総務省統計局）

新たな統計法（平成19年法律第53号）が4月1日に全面施行となった。今回の統計法の全部改正では、公的統計について、『「行政のための統計」から「社会情報基盤としての統計」へ』をコンセプトとしており、①公的統計の体系的整備、②統計データの利用推進と秘密の保護、③統計委員会の設置の3点が特徴として挙げられている。

ここでは、統計データの利用推進と秘密の保護に関連する「公的統計の調査票情報の提供と利用」について、法令規定とその運用を総務省政策統括官（統計基準担当）が定めたガイドライン注）に基づいて、見ていくことにしよう。

新たな統計法では、第40条で「この法律に特別の定めがある場合を除き、その行った統計調査の目的以外の目的のために、当該統計調査に係る調査票情報を自ら利用し、又は提供してはならない。」とし、統計調査において最も重要なことである調査対象者の秘密の保護（調査票情報等の保護）を図るため、いわゆる「目的外利用の禁止」を規定している。その上で、この「特別の定め」

として、第32条から第36条を規定している。このうち、研究者等に対する調査票情報の提供に関しては、次のように定めている。

第33条では、統計調査を実施した行政機関以外の行政機関への提供のほか、行政機関が行う統計作成と同等の公益性を有する統計の作成等を行う者へも提供できることを定めている。具体的には、統計法施行規則（平成20年総務省令第145号第9条）において、公的機関から委託を受けた調査研究、公的機関と共同で行う調査研究及び公的機関からの公募による方法での補助（科研費など）を受けて行う調査研究のほかに、行政機関がその政策の企画、立案、実施又は評価に有用であると認める統計の作成等が該当するとしている。

第34条では、委託による統計の作成等（いわゆるオーダーメイド集計）について、「（行政機関は）業務の遂行に支障のない範囲内において、学術研究の発展に資すると認める場合（中略）、一般からの委託に応じ、その行った統計調査に係る調査票情報を利用して、統計の作成等を行うことができる」と定めている。

第35条では行政機関における「匿名データの作成」について規定している。匿名データは調査し

た調査票情報に対して、個々の調査対象者等が特定されないように識別情報を削除するほか、グルーピング、トップ（又はボトム）コーディング、リサンプリングなどの加工を施したデータである。続く第36条では、この第35条の規定に基づき作成された「匿名データの提供」について定めている。同データは学術研究の発展のほか、統計法施行規則（平成20年総務省令第145号第15条）において、高等教育の発展に資すると認められる場合に提供できることとしている。高等教育における具体的な提供範囲としては、大学院生等が行う研究のほか、大学の教員が匿名データをそのまま学生に利用させる講義や演習での利用も想定している。なお、利用に当たっては、「匿名データの作成・提供に係るガイドライン」で利用時のコンピュータの環境が定められているので、それに従うことが求められる。

新たな統計法に基づき開始された「調査票情報の提供と利用」は、限られた統計リソース（予算・人員）の中で実施するものである。また、「委託による統計の作成等」と「匿名データの作成及び提供」は初めて実施することでもあるので、統計調査の対象者の立場にも十分に配慮し、慎重に進めていく必要がある。

ここに示す「調査票情報の提供と利用」が軌道に乗れば、我が国における経済学や社会学などの分野の実証研究がさらに進むことが期待される。また、行政面では、実施された政策の客観的な評価において、より一層活用されると考えられる。

最後に、新たな統計法では調査票情報の保護の観点からデータの適正な管理と守秘義務が厳格に規定されており、これに違反する行為に対しては罰則が定められている。しかし、個人情報保護の意識が高まっている中で、利用者の意識不足や不注意などによって、提供された調査票情報等の管理不備や不正利用などが起きると、このような調査票情報の利用の仕組みが大きく後退するだけでなく、統計調査の実施において重大な支障をきたすことになる。本会報（No.138）で廣松毅氏も記しているように、そのようなことが起こらぬよ

う、利用者一人一人が「情報倫理」について意識を高く持つとともに、定められた利用方法を厳守する必要があることを忘れてはならない。

注：総務省政策統括官（統計基準担当）が定めた各条文の運用に関するガイドラインは、次のホームページに掲載されている。

<http://www.stat.go.jp/index/seido/index.htm>

また、提供元となる各行政機関においては、このガイドラインに基づき、事務処理の要綱が決定され、利用者には手引きが示されることとなっている。

6.2 ガンマ乱数生成のアルゴリズムについて

谷崎久志（神戸大学大学院経済学研究科）

1990年代になってから、Gibbs SamplerやMetropolis-Hastings AlgorithmなどのMarkov Chain Monte Carlo (MCMC) という乱数生成の手法がベイズ推定に応用されるようになりました。応用の手順としては、まず、パラメータに事前分布を仮定し、モデルから得られる尤度関数から、事後分布を求めます。そして次に、事後分布から直接乱数を生成して、その乱数を用いてパラメータに関する推論を行うというものです。MCMCの利用に伴い、非常に複雑なモデルでも実証分析が行えるようになり、応用範囲が爆発的に拡大しました。

私自身もこの手法をよく使います（と言っても、私の場合は似非ベジアンと呼ばれる部類の者です）。ベイズ推定を行うと、多くの場合、ガンマ乱数が必要になってきます。単純な線形回帰モデルを例にすると、誤差項に正規分布を仮定すれば、分散の事後分布は逆ガンマ分布になります（これは分散の事前分布の仮定にも依存します）。ガンマ乱数の逆数が逆ガンマ乱数なので、このためにガンマ乱数生成のアルゴリズムが必要になります。ベイズ推定以外の他の例としても、ガンマ乱数が生成できれば、自由度が正の整数以外（すなわち、正の実数）のt分布やカイ2乗分布の乱数

生成も行うことができるようになります。

ご存知の通り、ガンマ分布とは密度関数が $f(x) = x^{\alpha-1} \exp(-x) / \Gamma(\alpha)$ となる分布です (ただし, $x > 0, \alpha > 0$). α はシェイプ・パラメータ (Shape Parameter) と呼ばれるパラメータです. 過去の研究から, いくつか代表的なガンマ乱数生成のアルゴリズムを調べていたところ, α が 1 より小さいか大きいかによって, アルゴリズムが異なるということが分かりました. その理由としては, α の値によって $f(x)$ の関数形が変化するからです. すなわち, α が 1 以上の場合は $f(x)$ は一つの山を持ち最大値が存在しますが, α が 1 より小さい場合は x が 0 に近づくにつれて $f(x)$ は無限大になります. 伏見正則著『乱数』(1989, 東京大学出版会) には, 両方のケースについて簡単なアルゴリズムが紹介されています. $0 < \alpha < 1$ の場合は Best (1983, *Computing*, Vol.30, pp.185-188), $\alpha \geq 1$ の場合は Cheng (1977, *Applied Statistics*, Vol.26, pp.71-75) がよいとされています (ただし, 後者は簡単ではあるが最速なアルゴリズムではありません). その他にも, $\alpha \geq 1$ の場合に関して, 高速な正規乱数が生成できれば, Minh (1988, *ACM Transactions on Mathematical Software*, Vol.14, pp.261-266) の方法も有用です.

α の値によってアルゴリズムを使い分けるのは煩わしいので, すべての $\alpha > 0$ について同じアルゴリズム, しかも, 簡単なアルゴリズム, さらに, 出来れば高速なアルゴリズムでガンマ乱数が生成出来ないものかを考えてみることにしました. その結果, これに関する論文は H. Tanizaki (2008), "A Simple Gamma Random Number Generator for Arbitrary Shape Parameters," *Economics Bulletin*, Vol.3, No.7, pp.1-10 に掲載されました. 論文は <http://economicsbulletin.vanderbilt.edu/2008/volume3/EB-07C10012A.pdf> からダウンロード出来るようになっています. そこで考案されたアルゴリズムを以下に紹介したいと思います.

[アルゴリズム]

(i) α を与えたもとの n, b_1, b_2, c_1, c_2 を次

のようにセットする. $0.0 < \alpha \leq 0.4$ のとき $n = 1/\alpha$, $0.4 < \alpha \leq 4$ のとき $n = 1/\alpha + (\alpha - 0.4)/(3.6\alpha)$, $4 < \alpha$ のとき $n = 1/\sqrt{\alpha}$ とおく. $b_1 = \alpha - 1/n$, $b_2 = \alpha + 1/n$ とする. また, $0.0 < \alpha \leq 0.4$ のとき $c_1 = 0$, $0.4 < \alpha$ のとき $c_1 = b_1 (\log(b_1) - 1)/2$ とおく. さらに, $c_2 = b_2 (\log(b_2) - 1)/2$ とする.

(ii) 区間 $(0, 1)$ で, 2 つの独立な一様乱数 v_1, v_2 を生成する. そして, $w_1 = c_1 + \log(v_1)$, $w_2 = c_2 + \log(v_2)$, $y = n(b_1 w_2 - b_2 w_1)$ を計算する.

(iii) $y < 0$ のとき (ii) に戻る.

(iv) $x = n(w_2 - w_1)$ とおく. もし $\log(y) \leq x$ ならば $\exp(x)$ をパラメータ α のガンマ乱数として採用し, もし $\log(y) > x$ ならば (ii) に戻る.

アルゴリズムをごく簡単に解説すると, X をガンマ分布に従う確率変数とすると, $X = Y^n$ として Y の密度関数を求めると, $g(y) = n y^{n\alpha-1} \exp(-y^n) / \Gamma(\alpha)$ となります. そうすると, $\alpha \geq 1/n$ について, $y \geq 0$ の範囲で $g(y)$ は最大値を持つことになり, $f(x)$ の $\alpha \geq 1$ のケースの手法をそのまま適用することが出来ます. 上記のアルゴリズムでは $g(y)$ に Ratio of Uniforms という方法が採用されています. さらに, n を α の関数, すなわち, $n = n(\alpha)$ と考え, しかも, $\alpha \rightarrow 0$ のとき $n \rightarrow \infty$ (または, $\alpha \rightarrow \infty$ のとき $n \rightarrow 0$) となるような何らかの減少関数とすれば, $\alpha > 0$ の範囲で Y の乱数を生成することが出来るようになります. 乱数生成が出来るだけ高速になるように選ばれたものが上記のアルゴリズムのステップ (i) での α と n との関係 (α の値によって, n と α との関係が異なる) ということになります. 紙面の都合上, 詳細は論文をご覧ください.

アルゴリズムの特徴は, (1) α の値によって乱数生成アルゴリズムを変更する必要はない, (2) 乱数生成のスピードは, 既存のアルゴリズムに比べて, それほど遅くはない (決して高速とは言えないが, 使い物になる程度のスピードはある), ということです. 実は, もっとレベルの高い他の専門誌にも投稿しましたが, 査読者の意見は極端に真っ二つに分かれて最終的には残念ながら棄却

ということになってしまいました。反対意見としては、「複雑なアルゴリズムであろうと、一旦、誰かがプログラムを書いてしまえば、それを利用すれば済むことで、簡単なアルゴリズムを作る必要性はなく、最速なアルゴリズムの方がいいに決まっている」ということでした。これはこれで一理あるのですが、例えば、NAG数値計算ライブラリ (http://www.nag-j.co.jp/nag_lib.htm) や IMSL数値計算ライブラリ

(<http://www.vni.com/products/imsl/index.html>) 等を使う場合は金銭的に費用がかかるということや引数等の使い方を調べるのが面倒なときがあったりします。また、一般的に高速なアルゴリズムはステップ数（すなわち、プログラム行数）が長い

という傾向があるようで、他人の論文を見て自分でプログラムを書く場合は、特に、エラーの対処に時間がかかることがあります（ときには、何回見直してもどこが間違えたのか分からないときもあります）。ここで紹介したアルゴリズムは、ステップ数も短く、既存の統計パッケージや統計ライブラリをそのまま利用するのではなく、1から自分でプログラムを組むという方には有用かと思えます。

というわけで、皆さん、一度、上記のガンマ乱数の生成アルゴリズムをお試ください。少なくとも授業の教材にはなると私は思っていますが、いかがでしょうか。

7. 修士論文・博士論文の紹介

最近の修士論文・博士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員、の順に記載いたします（敬称略。カッコ内は取得年月、ただし平成21年2～3月取得の場合は省略）。

修士論文

- (1) 安達太郎 (2) 修士 (工学) (3) 成蹊大学 (4) スクリーニングのある処置前後データの統計解析 (5) 岩崎 学
- (1) 飯塚章行 (2) 修士 (工学) (3) 成蹊大学 (4) 二項分布の比較におけるサンプルサイズ的设计 (5) 岩崎 学
- (1) 志村 穰 (2) 修士 (工学) (3) 成蹊大学 (4) 数量化Ⅲ類と項目反応理論によるテスト得点の分析 (5) 岩崎 学
- (1) 横山泰彦 (2) 修士 (工学) (3) 成蹊大学 (4) データマイニング手法を用いた医療データの分析 (5) 岩崎 学
- (1) 武内祐也 (2) 修士 (農学) (3) 東京大学 (4) 数理モデルによるBt抵抗性変異体の個体群動態予測とアミノ酸配列解析による毒素タンパ

ク質の受容体結合部位の検討 (5) 岸野洋久

- (1) 林 伸光 (2) 修士 (農学) (3) 東京大学 (4) Analysis of gonadal Piwi-interacting RNAs and transcriptome in the silkworm, *Bombyx mori* (カイコ生殖巣におけるPiwi-interacting RNAとトランスクリプトームの解析) (5) 岸野洋久
- (1) 井桁正克 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) 経時データモデルにおける欠測問題と検定統計量の高次元極限分布 (5) 杉山高一, 藤越康祝
- (1) 小林由佳 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) 線形混合モデルにおける統計的推測と条件付きAIC (5) 杉山高一, 藤越康祝
- (1) 佐久間敏治 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) On Sample Measures of Multivariate Kurtosis under Normality (5) 瀬尾 隆
- (1) 首藤信通 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Expected Probabilities of Misclassification in Linear Discriminant Analysis Based on Missing Samples under Normality (5) 瀬尾 隆
- (1) 中川明子 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Tests for Covariance Matrix in High

Dimensional Data (5) 瀬尾 隆

- (1) 大石真輝 (2) 修士 (公衆衛生学) (3) 東京大学 (4) ケース・コントロール研究における調査者の盲検化の評価 (5) 大橋靖雄
- (1) 大野浩太 (2) 修士 (公衆衛生学) (3) 東京大学 (4) Doubly Robust推定量の性能評価とSASマクロプログラム (5) 大橋靖雄
- (1) 坂巻顕太郎 (2) 修士 (公衆衛生学) (3) 東京大学 (4) 競合イベントを考慮したリスクスコアの作成と評価 (5) 松山 裕
- (1) 白濱聡子 (2) 修士 (公衆衛生学) (3) 東京大学 (4) がん電話相談録音記録からのクリニカル・クエスションの抽出に関する信頼性の検討 (5) 大橋靖雄
- (1) 東海林真吾 (2) 修士 (公衆衛生学) (3) 東京大学 (4) 標準集団を設定した臨床試験のデザインと解析計画 (5) 松山 裕
- (1) 田邊要子 (2) 修士 (保健学) (3) 東京大学 (4) STROBE声明を用いたコホート研究論文の質評価 (5) 大橋靖雄
- (1) 長島秀暢 (2) 修士 (公衆衛生学) (3) 東京大学 (4) 腎移植の費用効果分析 (5) 松山 裕
- (1) 牧 文 (2) 修士 (公衆衛生学) (3) 東京大学 (4) 地域の健康情報に関する空間・時間クラスタリング—健診データへの適用— (5) 大橋靖雄
- (1) 磯部昌吾 (2) 修士 (経済学) (3) 一橋大学 (4) コピュラを用いたVaRについて (5) 高橋 一
- (1) 藤田靖之 (2) 修士 (経済学) (3) 一橋大学 (4) エネルギー・スポット価格モデルとスプレッド・オプションのプライシング (5) 高橋 一
- (1) 筒井 大 (2) 修士 (経済学) (3) 一橋大学 (4) 確率過程を用いた商品先物価格のモデリング (5) 高橋 一
- (1) 下瀬亮之 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 正則化法に基づくガウシアングラフィカルモデリング (5) 小西貞則
- (1) 芹川義和 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 関連ベクターマシーンに基づく非線形回帰モデリング (5) 小西貞則
- (1) 松本宏二郎 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) カーネル正準相関分析とその応用 (5) 小西貞則
- (1) 澤村陽子 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) マルコフ確率場と混合ガウス分布に基づく空間データのカテゴリ比率の推定 (5) 西井龍映
- (1) 中元麻紀子 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) ベイズの階層的混合エキスパートによるモデル推定 (5) 西井龍映
- (1) 平野敏弘 (2) 修士 (経済学) (3) 東京大学 (4) Covariance Taperingを用いた大規模空間データの予測について (5) 矢島美寛
- (1) 三崎広海 (2) 修士 (経済学) (3) 東京大学 (4) モンテカルロ・フィルターによる信用リスクの推定 (5) 国友直人
- (1) 大西裕子 (2) 修士 (経済学) (3) 東京大学 (4) Bayesian estimation of entry games with multiple players and multiple equilibria (5) 大森裕浩
- (1) 国浜 剛 (2) 修士 (経済学) (3) 東京大学 (4) Bayesian analysis of max-stable processes with application to high frequency stock returns (5) 大森裕浩
- (1) 黒瀬雄大 (2) 修士 (経済学) (3) 東京大学 (4) 時変分位点のベイズ分析 (5) 大森裕浩
- (1) 比津貴行 (2) 修士 (経済学) (3) 東京大学 (4) State space modeling of long-memory stochastic volatility with leverage (5) 大森裕浩
- (1) 広瀬要輔 (2) 修士 (経済学) (3) 東京大学 (4) Estimating inefficiency in online auctions (5) 大森裕浩
- (1) 佐々木豪 (2) 修士 (経済学) (3) 東京大学 (4) On priors for the Bayesian variable selection problem (5) 久保川達也
- (1) 今井寛人 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Orthogonal Decomposition of Symmetry

- into Conditional and Global Symmetry for Three-Way Contingency Tables with Ordered Categories (5) 富澤貞男
- (1) 小島 壘 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) The Decompositions for the Symmetry and Conditional Symmetry Models in Square Contingency Tables (5) 富澤貞男
 - (1) 塩田直人 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Test of Homogeneity for Measure of Departure from Symmetry in Square Contingency Tables (5) 富澤貞男
 - (1) 坪井尚人 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Distance Measure of Departure from Symmetry for Square Contingency Tables with Nominal Categories (5) 富澤貞男
 - (1) 豊田喬功 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) The Delta Symmetry Model and its Applications (5) 富澤貞男
 - (1) 永谷典之 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A Measure of Departure from Average Symmetry for Square Contingency Tables with Ordered Categories (5) 富澤貞男
 - (1) 野村賢司 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Equivalence Test of Measures of Departure from Marginal Homogeneity for $r \times r$ Tables (5) 富澤貞男
 - (1) 羽鳥明日佳 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Measures of Departure from Collapsed Symmetry for Multi-Way Contingency Tables (5) 富澤貞男
 - (1) 塙 洋平 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Generalized Measure of Departure from No Three-Factor Interaction Model for $2 \times 2 \times K$ Contingency Tables (5) 富澤貞男
 - (1) 成島智昭 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A New Measure based on Sensitivity and Specificity (5) 富澤貞男
 - (1) 福司剛史 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A Generalization of Measure of Departure from Uniform Association in Two-Way Contingency Tables (5) 富澤貞男
 - (1) 毛利大紀 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A Measure of Departure from Diagonals-Parameter Symmetry Model for Square Contingency Tables (5) 富澤貞男
 - (1) 山田章史 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Generalized Measures of Departure from Symmetry for Square Contingency Tables (5) 富澤貞男
 - (1) 荻原哲平 (2) 修士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) Quasi-maximum-likelihood and Bayes type estimators for the stochastic differential equation with jumps (5) 吉田朋広
 - (1) 鈴木ゆら (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 海鳥の行動軌跡データの時空間統計解析 (5) 清水邦夫
 - (1) 谷澤優夏 (2) 修士 (理学) (3) 慶應義塾大学 (4) スマイルカーブとローカルボラティリティ (5) 柴田里程
 - (1) 年森彰子 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 精巣胚細胞腫瘍に関する遺伝子発現データの統計的解析 (5) 清水邦夫
 - (1) 黒田晋吾 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) 非心カイ2乗分布と非心t分布の近似について (5) 赤平昌文
 - (1) 金 俊暲 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) 統計的推定における最小分散不偏性について (5) 赤平昌文
 - (1) 栗原佳彦 (2) 修士 (理学) (3) 中央大学 (4) 多変量カテゴリカル変数に対する並べかえに基づく多重検定とそのmid-P値法を応用した補正 (5) 酒折文武
 - (1) 高橋友弥 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 2つの生存関数の比較に必要なサンプルサイズ (5) 田中 豊
 - (1) 山田俊哉 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) サポートベクターマシンとパターン認識手法による統計的判別 (5) 田中 豊
 - (1) 森山瑛司 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 直交配列表実験におけるプーリン

- グの研究 (5) 松田真一
- (1) 井上 宰 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) ロバストネスに着目したブートストラップ手法の比較 (5) 仁木直人
 - (1) 藤原正和 (2) 修士 (理学) (3) 広島大学 (4) 拡張主成分分析を用いた主成分回帰法 (5) 若木宏文
 - (1) 永井 勇 (2) 修士 (理学) (3) 広島大学 (4) 多変量一般化リッジ回帰モデルにおけるリッジパラメータの選択法 (5) 若木宏文
 - (1) 白木良知 (2) 修士 (環境学) (3) 岡山大学 (4) 最適ポートフォリオの推定とその安定性 (5) 笛田 薫
 - (1) 加藤達拓 (2) 修士 (環境学) (3) 岡山大学 (4) R/SVGによるインタラクティブグラフとアプリケーション (5) 飯塚誠也
 - (1) 忠政計志 (2) 修士 (環境学) (3) 岡山大学 (4) GISを用いた岡山市における不法投棄地点の予測 (5) 栗原考次
 - (1) 光岡孝祐 (2) 修士 (環境学) (3) 岡山大学 (4) リプロダクティブ・ヘルスに影響を与える要因分析 (5) 栗原考次
 - (1) 任 愛珍 (2) 修士 (発達学) (3) 神戸大学 (4) 多重比較におけるホルム法, 修正ウィリアムズ法およびダネット逐次棄却型検定法についての研究 (5) 稲葉太一
 - (1) 三矢恭悟 (2) 修士 (情報理工学) (3) 東京大学 (4) ジャンプ拡散過程の確率制御に基づく再保険の最適化に関する研究 (5) 竹村彰通
 - (1) 村岡優輔 (2) 修士 (情報理工学) (3) 東京大学 (4) 部分事後予測分布に基づくモデル検証の漸近的性質 (5) 駒木文保
 - (1) 片庭 淳 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) バリアンス・スワップを用いた派生証券の動的ヘッジ戦略の研究 (5) 三浦良造
 - (1) 近藤秀史 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) クラスタ分析によるヘッジファンドの分類 (5) 本多俊毅
 - (1) 守田康一 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) 企業統治と負債・資本構造 (5) 本多俊毅
 - (1) 吉川斉志 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) ヘッジファンド・リターンの主成分分析 (5) 本多俊毅
 - (1) 大城達也 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) 負債を考慮した他期間最適投資戦略 (5) 本多俊毅
 - (1) 佐伯一郎 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) 海外発電事業ポートフォリオの評価と最適投資配分 (5) 本多俊毅
 - (1) 柴田 哲 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) 共通の予測変数を用いた株式と社債の期待収益率算出及びポートフォリオ構築 (5) 本多俊毅
 - (1) 岩出武士 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) ロバストポートフォリオ選択問題の日本市場への適用 (5) 中村信弘
 - (1) 大下勝俊 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) 国債の利払いにおけるコストとリスクに関する研究 (5) 中村信弘
 - (1) 佐久間吉行 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) CDS市場のハザード・レート推定とCDS実証分析 (5) 中村信弘
 - (1) 角谷大輔 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) マクロ・ファイナンスモデルの日本経済への適用 (5) 中村信弘
 - (1) 矢田 明 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) 死亡率変動と年金負債リスク (5) 中村信弘
 - (1) 来海邦洋 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) 多変量判別分析のアプローチによる国内上場企業倒産に関する一考察 (5) 中川秀敏
 - (1) 皆吉真一郎 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) 本邦デフォルト実績データによるデフォルト依存関係のベイズ推定 (5) 中川秀敏
 - (1) 武居敦信 (2) 修士 (経営)「金融戦略MBA」

- (3) 一橋大学 (4) 住宅ローンのプリペイメントと個人属性・返済履歴との関係についての実証分析 (5) 中川秀敏
- (1) 吉規寿郎 (2) 修士(経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) 中小企業CLOにおけるデフォルト依存関係の推定 (5) 中川秀敏
- (1) 関根秀一 (2) 修士(経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) 日本の上場企業間M&Aにおける買収プレミアムの特長について (5) 大橋和彦
- (1) 高岡和佳子 (2) 修士(経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) 機関投資家の投資行動による金利期間構造への影響 (5) 大橋和彦
- (1) 渡部 健 (2) 修士(経営)「金融戦略MBA」 (3) 一橋大学 (4) 日本卸電力取引市場(JEPX)におけるスポット取引価格モデルに関する研究 (5) 大橋和彦

博士論文

- (1) 行實隆宏 (2) 博士(情報工学) (3) 九州工業大学 (4) バンプ探索とその応用 (5) 廣瀬英雄
- (1) Leonardo de Oliveira Martins (2) 博士(農学) (3) 東京大学 (4) Bayesian Inference of Viral Recombination: Topology distance between DNA segments and its distribution (ウイルスゲノム組換えのベイズ推定: DNA部分配列の間のトポロジー距離とその分布) (5) 岸野洋久
- (1) 桑原優美 (2) 博士(工学) (3) 中央大学 (4) ファジィトレンドモデルとその金融時系列データへの応用に関する研究 (5) 遠藤 靖
- (1) 菅 民郎 (2) 博士(理学) (3) 中央大学 (4) 数量化2類における追加情報検定と変数選択法 (5) 杉山高一, 藤越康祝
- (1) 小泉和之 (2) 博士(理学) (3) 東京理科大学 (4) Some tests for equality of means and simultaneous confidence intervals with missing data (欠測値データをもついくつかの平均の同等性検定と同時信頼区間) (5) 瀬尾 隆
- (1) 石井苗子 (2) 博士(保健学) (3) 東京大

学 (4) 健康診査受診勧奨のためのキャンペーン介入研究 (5) 大橋靖雄

- (1) 上村鋼平 (2) 博士(保健学) (3) 東京大学 (4) 群間差に関する事前情報を考慮したベイズ流被験者数再設定方法と新しい評価系の提案 (5) 松山 裕
- (1) Sharakipoor Mahnaz (2) 博士(保健学) (3) 東京大学 (4) An Epidemiological Data Analysis of a Case-Control Study for Breast Cancer in Iran (5) 大橋靖雄
- (1) 元山 齊 (2) 博士(経済学) (3) 一橋大学 (4) 有限母集団における統計学的汎関数について (5) 高橋 一
- (1) 松井秀俊 (2) 博士(数理学) (3) 九州大学 (4) Regularized Functional Regression Modeling and its Applications (5) 小西貞則
- (1) 加藤 順 (2) 博士(情報科学) (3) 北海道大学 (4) 統計学とグラフ理論に基づくコンテンツ権利処理技術とその応用に関する研究 (5) 水田正弘
- (1) 赤司健太郎 (2) 博士(経済学) (3) 東京大学 (4) Econometric analyses of panel data: theory and application (パネルデータの計量分析: 理論と応用) (5) 国友直人
- (1) 宮脇幸治 (2) 博士(経済学) (3) 東京大学 (4) Bayesian analysis of multinomial Tobit models (5) 大森裕浩
- (1) 加藤賢吾 (2) 博士(経済学) (3) 東京大学 (4) Essays on shrinkage methods in statistics (統計学における縮小化法に関する研究) (5) 久保川達也
- (1) 山本紘司 (2) 博士(理学) (3) 東京理科大学 (4) Decompositions of Model and Measure for Analysis of Square Contingency Tables (5) 富澤貞男
- (1) 遊間義一 (2) 博士(社会工学) (3) 筑波大学 (4) Recidivism of Japanese Offenders (5) 金澤雄一郎
- (1) 佐部利真吾 (2) 博士(文学) (3) 愛知学院大学 (4) 最尤非対称多次元尺度構成法の研

究 (5) 千野直仁

- (1) 門脇 聖 (2) 博士 (理学) (3) 広島大学 (4) Characterization and existence of affine a -resolvable block designs (5) 若木宏文
- (1) 韓 相勲 (2) 博士 (学術) (3) 岡山大学 (4) Studies on Hotspot Detection for Korean Earthquake Data using Echelons (5) 栗原考次
- (1) 羅 明振 (2) 博士 (学術) (3) 岡山大学 (4) Studies on Optimal Site Selection of Final Waste Disposal Facility (5) 栗原考次
- (1) 高井啓二 (2) 博士 (工学) (3) 大阪大学 (4) Statistical Modeling for Unobserved Variables

and Incomplete Data (5) 狩野 裕

- (1) 川合成治 (2) 博士 (統計科学) (3) 総合研究大学院大学 (4) 非線形確率過程としてみた神経回路モデルにおける統計的解析 (5) 石黒真木夫
- (1) 塚越芳樹 (2) 博士 (統計科学) (3) 総合研究大学院大学 (4) Statistical Analysis of Fractures from Senbei to Earth's Crust (5) 尾形良彦
- (1) 鈴木大慈 (2) 博士 (情報理工学) (3) 東京大学 (4) Theory of Information Integration in Statistical Learning (5) 駒木文保

8. 評議員会議事録

2008・2009年度 第2回評議員会 議事録

日 時：2008年11月15日 (土) 16:00~17:30

場 所：統計数理研究所会議室

出席者：(会長) 北川源四郎, (以下評議員) 会田雅人, 伊藤彰彦, 今井英幸, 岩崎学, 牛澤賢二, 大林千一, 狩野裕, 川崎茂, 川崎能典, 菊地進, 久保川達也, 倉田博史, 栗木哲, 桑原廣美, 小西貞則, 杉山高一, 高橋一, 竹村彰通, 田中勝人, 田村義保, 椿広計, 中野純司, 藤越康祝, 舟岡史雄, 水田正弘, 矢島美寛, 山下智志, 山本拓, 美添泰人, 若木宏文, 渡辺美智子 (以上32名), 委任状7通

冒頭, 会長より, 評議員会の成立が宣言された。

議 題：

報告事項

<議題1>理事会からの報告

岩崎理事長より以下の点について報告があった。

- 1) 2008-2009年度の理事および監事の紹介
- 2) 春季集会を2009年3月6日(金)に統計数理研究所で開催する予定であり, 江口理事および田村理事にオーガナイザーをお願いしている。
- 3) IMSの招待セッションへの協力を予定してい

る。

4) 通常の理事会のほか, 新たにメールによる理事会運営を行う。

5) 外部からの諸受賞候補者推薦の依頼について, 理事会として授賞候補者を選出するプロセスを定めた。

山下庶務理事より, 欧文誌刊行経費について科学研究費に応募したとの報告があった。

<議題2>学会賞会計報告

倉田庶務理事より2008年度学会各賞の会計報告がなされた。

<議題3>研究部会最終報告

倉田庶務理事より研究部会「マーケティングへの統計科学アプローチ研究部会」(照井伸彦主査)最終報告書が代読され, 承認された。

<議題4>研究分科会中間報告

統計教育分科会(藤井良宜会長)の中間報告書について渡辺美智子前会長より報告され, 承認された。倉田庶務理事より, 計量経済・計量ファイナンス分科会(谷崎久志主査)の中間報告書が代読され, 承認された。

<議題5>各委員会からの報告

[学会活動特別委員会]

田村主査より学会活動特別委員主査として春季

集会への協力をする事の報告があった。

〔学会組織特別委員会〕

矢島主査より学会組織特別委員会の活動について理事及び会員からの要望を求めるとの提案がなされた。

〔統計教育委員会〕

渡辺委員長より、10月25日に統計教育委員会を開催し諸プロジェクトの進捗状況の報告と今後の方針についての議論がなされたと報告された。今期のテーマとして「知識基盤社会における統計教育の新展開－小中高と大学・社会を繋ぐ教育システムの研究」を採用することとなった。また統計教育シンポジウムを12月6日に、統計教育方法論ワークショップを2009年3月7日に開催することが報告された。

＜議題6＞入退会者報告

倉田庶務理事より入退会者が報告された。

＜議題7＞その他

伊藤評議員よりシンフォニカの事務所移転について報告された。

審議事項

＜議題8＞研究部会、研究分科会の新設

北川会長より、研究部会、研究分科会の新設申

請がないことが報告された。

＜議題9＞選挙管理委員の選任について

中西寛子会員を選挙監理委員に選任することに決定した。

＜議題10＞長期滞納者の見なし退会について

岩崎理事長より長期滞納会員のみなし退会が提案され、審議の結果、了承された。

＜議題11＞次期会長候補者の選出

倉田庶務理事より、資料に基づき次期会長候補者の選出方法について説明が行われた、続いて、岩崎理事長より、回収資料に基づいて次期会長候補者の被推薦者の紹介が行われた後、評議員による投票が行われ、美添泰人会員が次期会長候補者として選出された。

＜議題12＞その他

評議員より統計関連学会連合との関わりについての質問があったことに対して、岩崎理事長より統計学会は学会連合の中で中心的な役割を果たし、統計の専門家集団として今後とも積極的に社会に向けての情報発信に努める方針であるとの回答があった。

＜議題13＞次回評議員会の開催について

北川会長より、次回評議員会は2009年連合大会期間中に開催することが提案され、承認された。

9. 理事会議事録

2008・2009年度 第2回理事会議事録

日時：1月24日（土）12：00～14：30

場所：統計数理研究所 会議室（2F, 所長室前）

出席者：美添泰人会長、岩崎学理事長、谷口正信（会誌編集・欧文）、渡部敏明（会誌編集・和文）、内田雅之（広報・HP）、福地純一郎（広報・会報）、江口真透（渉外・一般）、田村義保（渉外・プロジェクト研究）、勝浦正樹（大会企画）、稲葉由之（大会企画）、橋本紀子（大会・運営）、橋口博樹（大会・運営）、倉田博史（庶務会計）、山下智志（庶務会計）、各務和彦（庶務会計）
（以上15名、カッコ内は役割分担）

報告事項：

＜議題1＞会長就任挨拶

冒頭、美添会長より会長就任の挨拶があった。

＜議題2＞理事長からの報告

11月15日に行われた評議委員会で、美添会長が会長に選出されたこと、長期学会費未納者を退会扱いとすること、シンフォニカの移転に伴い細則の変更を行うことが決定されたことが報告された。

第1回メール理事会で、横幹連合からの相互協力について賛同しないこと、外部からの受賞候補

者依頼などへの対応を承認したことが報告された。

第2回メール理事会で、入退会を承認したことが報告された。

統計関連学会連合理事会において、2009年度大会、統計教育に関する議論があったことが報告された。また、統計関連学会の事務局をシンフォニカに設置する予定であることが報告された。

＜議題3＞各理事からの報告

〔欧文誌〕

谷口担当理事より、現在、第3号が印刷中であることが報告された。また、テラパブから出版をWiley-Blackwellに変更してはどうかという提案があったことが報告された。なお、変更するか否かは引き続き審議事項として審議していくことが確認された。

〔和文誌〕

渡部担当理事より、第2号の進捗状況が報告された。

〔広報〕

福地会報担当理事より、会報138号の進捗状況が報告された。

内田ウェブ担当理事より、メーリングリストへの投稿は会員以外からの投稿であったとしても公募情報等の会員に有益な情報はウェブ担当理事の判断で掲載することが確認された。

〔渉外〕

江口担当理事より、3月6日に統計数理研究所において日本統計学会春季大会が開催されることが報告された。また、春季大会に向けての進捗状況が報告された。

〔大会プログラム〕

勝浦担当理事より、9月6日から10日まで統計関連学会連合大会が開催されることが報告された。また、その進捗状況が報告された。

〔大会事務局〕

橋本担当理事より、連合大会業務をISSに変更することが報告された。

〔庶務会計〕

各務担当理事よりJournal@rchiveにおいてJJSS誌の電子化が完了したことが報告された。

倉田担当理事より(1)細則13条が変更されたことが報告されたこと、(2)2007年、2008年のISIへの入金完了したこと、(3)日本経済学会連合の英文年報の担当が日本統計学会であり、担当が西郷浩先生となったことが報告された。

山下担当理事より、事務局のシンフォニカ移転に伴い統計数理研究所に日本統計学会の資料が残されていることが報告された。また、その整理を山下理事に一任することが確認された。

＜議題4＞学会活動特別委員会からの提案

田村担当理事／委員会主査より、統計活動特別委員会で統計学会としてのロードマップを作成していくことが提案され、承認された。

審議事項：

＜議題1＞和文誌の印刷会社について

渡部理事より、和文誌の印刷会社をテラパブに変更することが提案され、承認された。

＜議題2＞入退会者の承認

倉田理事より、回収資料により入退会者について説明があり、入退会が了承された。

＜議題3＞今後の会務日程

岩崎理事長より、次回理事会を5月30日12:00～開催することが提案され、承認された。

＜議題4＞その他

美添会長より、60周年記念事業の経緯について説明があった。寄付の残金について会計を確認したうえで、残金を企画等で適切に使用していくこととされた。

岩崎理事長より、学会賞の候補者が少ないため、推薦を募っていることが説明された。また、統計教育委員会において、Australian Bureau of Statisticsと契約を結びCensus at Schoolを使用していくこと予定となっていることが報告された。

10. 来日統計学者

●Jean Jacod

訪問者の略歴：University of Paris VI (パリ第6大学), フランス

滞在期間：平成20年9月7日－9月9日

滞在先：東京大学大学院数理科学研究科

世話人：吉田朋広

●Marc Hoffmann

訪問者の略歴：Paris graduated school of Economics, Statistics and Finance (パリ経済統計金融大学院), フランス

滞在期間：平成20年11月17日－11月29日

滞在先：東京大学大学院数理科学研究科

世話人：吉田朋広

●Alexandre Brouste

訪問者の略歴：University of Maine (メイン大学), フランス

滞在期間：平成20年11月24日－12月1日

滞在先：東京大学大学院数理科学研究科

世話人：吉田朋広

●Yury Kutoyants

訪問者の略歴：University of Maine (メイン大学), フランス

滞在期間：平成20年11月24日－12月6日

滞在先：東京大学大学院数理科学研究科

世話人：吉田朋広

●Michael Soerensen

訪問者の略歴：University of Copenhagen (コペンハーゲン大学), デンマーク

滞在期間：平成20年11月25日－11月30日

滞在先：東京大学大学院数理科学研究科

世話人：吉田朋広

●Nicolas Privault

訪問者の略歴：City University of Hong Kong (香港城市大学), 中国

滞在期間：平成20年12月16日－12月23日

滞在先：東京大学大学院数理科学研究科

世話人：吉田朋広

●Jeannette Woerner

訪問者の略歴：Technical University of Dortmund, (ドルトムント工業大学), ドイツ

滞在期間：平成21年2月14日－2月26日

滞在先：東京大学大学院数理科学研究科

世話人：吉田朋広

●Ernst Eberlein

訪問者の略歴：University of Freiburg (フライブルグ大学), ドイツ

滞在期間：平成21年2月16日－2月24日

滞在先：東京大学大学院数理科学研究科

世話人：吉田朋広

●Ludger Rueschendorf

訪問者の略歴：University of Freiburg (フライブルグ大学), ドイツ

滞在期間：平成21年2月16日－2月22日

滞在先：東京大学大学院数理科学研究科

世話人：吉田朋広

●Stefano Iacus

訪問者の略歴：University of Milano (ミラノ大学), イタリア

滞在期間：平成20年11月29日－平成21年1月1日, 平成21年1月31日－2月8日

滞在先：東京大学大学院数理科学研究科

世話人：吉田朋広

●Professor Tom Britton

訪問者の略歴：1990 スtockホルム大学数学科卒, 1996 PhD-degree (ストックホルム大学), 1999 Docent degree (ウプサラ大学)

職歴：1996 ポスドク (ラトロープ大学), 1997 助教・准教授 (ウプサラ大学数学科), 2003 教授 (ストックホルム大学数学科)

滞在期間：平成21年3月14日－3月17日

滞在先：東京大学農学生命科学研究科

世話人：岸野洋久

11. 新刊紹介

本会会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を、原稿の到着順に掲載します。

●仁木直人著『基礎情報学』培風館、(価格：3100円+税) 2009年2月

情報学への学部・修士学生向け入門書。情報＝観測事実から始めて、意思決定における情報価値評価、分布間距離としての情報量とその最小化原理、自然指数分布族をモデルに使う意味など、統計学の基礎概念を多く含む。

12. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2009年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
財団法人 統計情報研究開発センター内
日本統計学会係
Tel & Fax : 03-3234-7738
E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

石原 忠重 妻鳥 敏彦

入会承認

今川保, 植木優夫, 影山正幸, 小澤良往, 染井大輔, 中江健, 中本信子, 西田小百合, 正木伸之, Subir Ghosh, 協和発酵キリン株式会社(団体会員) (敬称略)

退会承認

朝倉真粧美, 遠藤秀機, 菊地圭一, 黒川恒雄, 酒井隆, 武田純, 千田恒光, 張徳歳, 鶴田喜彦, 手良向聡, 中川明子, 西室悟司, 増沢俊彦, 松永信人, 山田章史, 吉田耕作 (敬称略)

現在の会員数 (2009年3月31日)

名誉会員	21名
正会員	1,381名
学生会員	46名
総計	1,448名
賛助会員	18法人
団体会員	4団体

13. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

- 求人案内（教員公募など）

- 研究集会案内

- 新刊紹介

著者名、書名、出版社、税込価格、出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。できるだけe-mailによる投稿、もしくは、文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

学習院大学経済学部

福地 純一郎 宛

Tel：03-5992-2085

Fax：03-5992-1007

E-mail：koho@jss.gr.jp

（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

・ 統計学会ホームページURL：

<http://www.jss.gr.jp/>

・ 統計関連学会ホームページURL：

<http://www.jfssa.jp/>

・ 75周年記念事業ホームページURL：

<http://www.math.chuo-u.ac.jp/~sugiyama/jss75>

・ 住所変更連絡用e-mailアドレス：

meibo@jss.gr.jp

・ 広報連絡用e-mailアドレス：

koho@jss.gr.jp

・ その他連絡用e-mailアドレス：

shom@jss.gr.jp